

1. 当園の教育目標

○ 園での生活を通して、伸び伸びと遊ぶ楽しさや人と関わる喜びを十分に味わわせることで、子どもたちの心を幸福感で満たし、情緒の安定した偏りの無い人格を形成する。

○ 人に受け入れられる、認められる経験を通して、自己肯定感と感謝の気持ちを持てるよう導き、生きる力の基盤となる強い心を育む。

○ 感情の行き違いや意見の衝突を経験することで、自分以外の人も自分と同様に大切な存在であることに気づくよう導き、他に対する思いやりやいたわりの心を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 職員が意欲的に取り組めるように、職場環境の充実を図り、
処遇改善に努める。

職場環境の充実

- ① 面談の機会を増やし、職場環境に関する希望等、意向の聞き取り把握に努める。
担任・副担任・特別支援など人員配置を決める上でも、職員の技能・適正だけでなく本人の意向を加味し、相談しながら調整することで職員の納得を得られるように配慮する。
- ② 発達障害やネグレクト等、特別な配慮・支援を必要とする園児や保護者への対応は、園全体の問題と捉え、複数の職員で連携することで、担任の精神的負担を軽減する。

処遇改善

- ③ 給与面では諸手当の項目を見直し、工夫・改善することで、職員の希望に添った形での給与加算を実現する。
- ④ 職員間の慣例化したルールを見直し、合理化することで勤務時間の短縮を図る。

- **衛生面に配慮した環境整備に努める。**

子どもがより安心して健康的に遊べるように、保育室や園庭の衛生管理に努める。
具体的にはアレルギーの予防や感染症の拡散を防ぐために、各保育室並びに職員室に滅菌・空調機器を完備し、砂場の除菌清掃と共に、定期的なメンテナンスを行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 職員が納得できる人員配置を実現できたか A

担任・副担任・特別支援の対応等、人員配置を決めるにあたり本人の希望を把握した上で次年度以降の職員体制を適切に整えることができた。特に職員の個人的な事情も考慮して、できる限り本人の意向に沿い、精神的な負担を軽減できるように、加配教諭の配置など配慮することができた。

2) 特別支援や配慮を必要とする園児や保護者に、組織的連携による対応ができたか C

担任が対応に苦慮する事例の場合、園長や主任・臨床心理士は担任の相談に応じ、助言するにとどまり、実際の対応は担任任せになることが多かった。

特に保護者対応の場合は、相手(保護者)の意向により、担任以外の職員の介入が難しいことも多いが、担任の精神的負担を軽減するために、今後はより慎重かつ積極的に複数職員が連携してサポートする必要性を感じる。

3) 職員の処遇改善 B

給与面では、諸手当の増額など、緩やかではあるが改善できている。今後は特に経験年数に関わりなく、全職員のライフスタイルに対応して生活を保障できる水準を指向してさらなる昇給を実現させたい。尚、就業時間については保育以外の業務を分担・合理化することで職員の負担軽減を図りたい。

4) 衛生面に配慮した環境整備 A

室内においては次亜塩素酸水による拭き取り消毒に加え、高機能空気清浄機の導入によって、加湿・除菌・花粉等の集塵を行うことで、インフルエンザによる欠席者数が、昨年と比べて減少した。園庭の砂場は業者に委託し、月2回砂の殺菌消毒を行うことで、衛生

面で改善している。

5) 幼児教育無償化実施に向けての準備 B

次年度途中からスタートする幼児教育無償化について、その内容や自分たちへの影響、起こり得る可能性などを文章にまとめ、予告することで保護者の理解を仰ぎ、円滑に移行するための下準備はできた。しかし、制度上未確定な部分も多く、保育料と給食費に分けての価格設定や保育料適正化に向けての見直しなどを、次年度に見送ったことは、準備として万全とは言えない部分もあった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 B

- 1名の職員の入れ替わりはあったが、前年度まで2年続いた大幅な新旧交代に比べると不安を感じることもなく、人的環境は安定している。勤務2年目・3年目を迎えた職員も組織になれ、少しずつ積極性が発揮されるようになり、各々が着実に保育者として自分の役割を果たすことができた。

一方、自閉症スペクトラムや多動・発達障害の子どもや、育児放棄・精神的虐待・過干渉の保護者等、特別な配慮や支援を必要とする事例が多く、対応に苦慮する1年でもあった。継続的に直接関わる担任の負担は大きく、組織としてのサポートは問題意識の共有にとどまり、役割を分担して積極的に介入するには至らなかった。今後も職員の定着のためには、精神的負担を軽減し、意欲的に保育に取り組める職場環境を整えるような取り組みを継続していく必要を感じている。尚、人材確保に向けて、職員の処遇改善については今後も引き続き検討を重ね善処していく。

- 昨今、インフルエンザや感染性胃腸炎等の流行は頻度が増し、学級閉鎖を余儀なくされる事態への対処として、昨年より準備を進め保育室に高機能空気清浄機を導入した。結果、園内での感染の広がりには減少傾向にある。又、園庭の砂場の砂の消毒は業者に委託し、月2回確実に行っており、衛生面での取り組みは一定の効果を上げることができた。

- 次年度の保育料公的減免制度は4月～9月までの就園奨励費補助金と10月からの無償化の過渡期にあたり、年度途中で大きな変更が予想される。制度変更への対応が円滑に進むように、引き続き情報収集に努め、保護者の理解を仰ぐべく準備を進めていく。

5. 今後の取り組むべき課題

○ 人材の確保

社会情勢と園の現状に照らして、預かり保育対応・特別支援対応など、余裕のある人員配置を実現するために、更なる職員の補充・増員に向けての取り組みに力を注ぐ。

○ 健康面に配慮した環境整備

日除けやミストなど、夏の熱中症対策の強化や水の管理など、子どもが遊ぶ環境をより安全で快適にするための整備。

○ 学齢に応じたカリキュラムの見直し

各学年ごとに保育内容を見直し、発達に即した適正な内容であるか、偏りのない経験の機会を保証できているかを検証しながら、具体的にカリキュラムを再編成する。

○ 保育料の完全無償化への対応

保育料と給食費を分けて明示する機会に、実質保育料が自園の教育活動に見合う適正価格であるのか、更なる保育内容の充実を図ることを指向して検証する。

6. 学校関係者の評価

○全項目にわたって特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。